

カスミサンショウウオ



環境省指定絶滅危惧種、鳥取県指定絶滅危惧種

西伯地区産

(撮影：桐原佳介)

私は、カスミサンショウウオを親しみ込めて「カスミちゃん」と呼んでいます。カスミちゃんとは、止水域に生息する西日本の代表的なサンショウウオです。本種を含め、国内のサンショウウオの多くが、世界中で日本にしかない貴重な生き物です。1〜4月、カスミちゃんたちは恋の季節を迎えます。水辺に集まったカスミちゃんたちは、細長いコイル状の形をした寒天質の卵塊を生みます。

一昔前は普通種だった小型サンショウウオは、生息環境の悪化でその数を急速に減らしています。カスミちゃんは、赤ちゃん時代を水が溜まった田んぼや流れの少ない溝などで過ごし、やがて上陸して森で暮らし始めます。しかし、森に移動する時に水路がコンクリートだと、その溝を越えることができません。なぜなら、カスミちゃんたちの手には、アマガエルのような吸盤がないからです。コンクリート水路は、森に棲む両生類たちにとって、森と水辺を分断する

大きな壁になっていきます。また放棄水田の増加、森林の皆伐なども減少の要因とされています。さらに、悪質なベット業者が繁殖地で卵を丸ごと持ち去る乱獲も行われているようです。

私は、平成16年から町内のカスミちゃんを調べています。すると平成14年の時点で正式記録は、わずか一カ所のみだったのですが、現在19の地区でカスミちゃんの繁殖地が確認されました。もしかしたら、町内全域にいる可能性もあります。

豊潤な里山環境に生きるカスミサンショウウオにとって、人が適度に手を加え維持管理された二次自然が重要です。私たちの町の自然の豊かさを物語る生き物が、いつまでも同じ町民であって欲しいと願うばかりです。



カスミサンショウウオの卵塊、孵化直前の幼生

自然観察指導員 桐原真希